



園長だより

第8号



新渡戸文化子ども園
平成25年12月13日

「我がママ」と「わがママ」

「私のママは、美味しいパスタ作れるんだよ。」と、女の子が教えてくれた時幼い日の「我がママ」自慢を思い出しました。

参観日に先生が「お母さんの自慢できるところはなんでしょう？」と聞かれ、幼く素直な私は「もったいないからと言って、捨てずに全部野菜を使う所です。大根の葉っぱや、ニンジンの皮もお味噌汁に使います。」と、他のお母様方の前で正々堂々と言った覚えがあります。高度成長期時代にはそぐわない発言で、母の顔が真っ赤になったのを思い出しますが、今では無農薬の皮まで食べれる野菜がトレンドになっていますので、きっと今だったら母の顔色も違ったのだらうなと失笑いたしました。

子ども達にとってはご両親、特に「我がママ」は価値観を形成する大きな指標なのだと思います。よって、子ども同士の会話でも「我がママ」自慢はとても微笑ましい光景です。

同時に、子ども達が「わがママ」が言いやすい相手は「我がママ」となってくるのでしょうか。園では社会性を身につけるための教を先生方が優しく丁寧に、時には厳しく伝えていきますので、「わがママ」を言って先生方を困らせる場面は、学年が上がるごとに少なくなってきました。そして、卒園するころには集団でお話をしっかりと聞いたり、自分の話を皆の前でしたり、友達と仲良く遊ぶなどの態度も身につけていきます。

先生が、話をする時に周りがしっかりと見えずに話をしてしまうと、「わがママ」な言動をする子どもが出てきます。そこで、プロの軌道修正の言葉がけをしながら、先生自身の「わがママ」な話しかけを反省もし次回へと繋げていきます。子ども達自慢の「我がママ」も、忙しい時間に追われそんな時もあるかもしれませんね。

子ども達の甘えを甘受しながら「わがママ」を受け止める「我がママ」や、厳しく教える「我がママ」。そして、大人もそんな子ども達の「わがママ」からいろいろな事を学んでいきたいですね。

つぶやき

年長男児「サンタクロースはいないよね。だって、お母さんがプレゼントくれるから。」

先生「え？本当？でも、25日の朝にりかぼん（うさぎ）のおうちに、たくさんのおみやげ、新しい毛布が届くって

サンタさんからお知らせが来たけど。それに、りかぼんのお母さんは遠くにいるから、毛布を届けることはできないけれど。じゃ、誰なんだろう？」

年長男児「へええ。。。 (沈黙)」

先生「25日の朝が楽しみね。」

3歳児男児「あ—————
—————よかった。」

(アドベント礼拝終了後、会場から出てきて一言)

先生「どうして？」

3歳児男児「だって、お話が終わったから。」

(いつもは元気な子が、我慢をして静かにお話を聞けるようになったんだね。)と、先生も笑顔。



子育て相談 ～子ども園相談室より～



年始には、子ども達も普段お会いできないおじいちゃま、おばあちゃまご親戚にお会いする機会がある事でしょう。「あけましておめでとうございます。」と、家族同士、また家族以外の方に「かしこまって」子ども達が言えるとても良い機会でもあります。

私や先生方との毎朝夕の玄関でのご挨拶時、子ども達は両手を足の脇にピンと伸ばし、目をまっすぐと見、「かしこまって」挨拶をしていますね。

ご家庭でも1年の始まりを、お子様と「かしこまって」のご挨拶でスタートできると良いですね。良いお年をお迎えください。